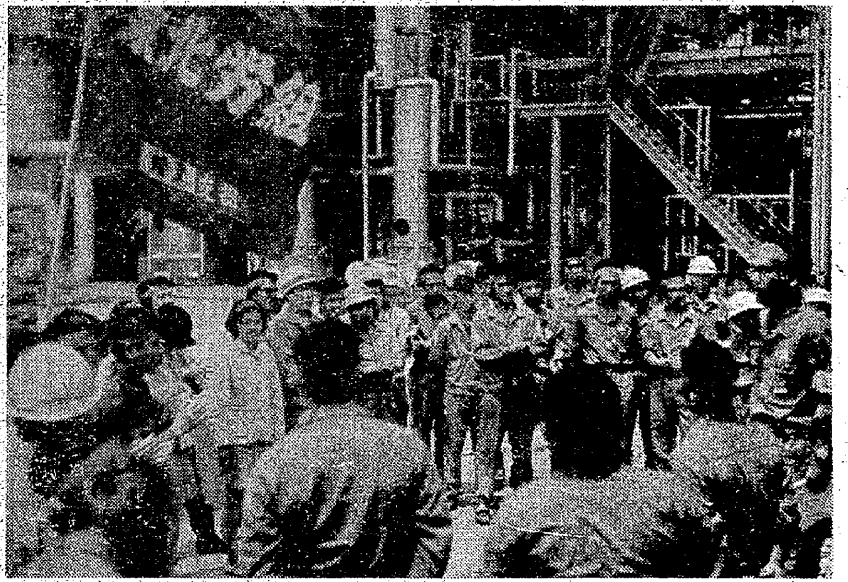


大牟田春闘回答状況 (6月10日現在)

組合名	回答額	備考
化学 三東合 化庄成	9,405 同上 同上	期手150,000円(うち貸付30,000円)。受結。同上
民間 三西三 池鉄煉 全九電	5,550 9,700 8,674 11,604	受結。中労委再あつせんによる。受結。一時金として他に1,000円。受結。期手200,302円。受結。
全日自 男 女	136 121	ただし日給で。受結。
公労協 国全全 鉄通通 電専売	9,780 9,034 8,800 9,338	公労委の仲裁々定による。受結。同上
民間中小 大三山 米の山 日本製 紙	8,000 2,500 6,500	他にプラス・アルファ。受結。現在なお交渉中。
中 自動車学 校	7,000 3,500	受結。
立 農九井 協州火 力簡屋	5,500 10,000 9,012	受結。受結。受結。
同盟系 三電松 作化屋	8,300 9,600 9,016	受結。受結。受結。

大牟田の春闘は、ほとんど昨年を上回る成果となつた。全国的に見ると、1万円以上2,203組合で、1万5千円以上が81組合。

ストライキに突入し、構内をデモする東北石油化学の労働者。もとより第二組合所属のものはずだ。



次々に大幅賃上げ獲得

ほとんど昨年上回る

激しかった大牟田の春闘

大牟田の春闘はまだ終わってはいないが、しかしほとんど例外なしにどの組合も、昨年を上まわる大幅賃上げを獲得した。このことは、物価値上がりのはげしいとき当然なことだとされよう。しかし闘いのほげしかった点も今年の春闘の特徴だった。(結果は別表を参照のこと)

石油化学も「スト」

化学第二組合も共に結集

大牟田の春闘で、これまでのところ、従来四分五裂の状態につき、こころよく注目されるのは三井東洋化学の労働者の闘いだ。ただ、ただその中でも連帯と統一をのぞく周知のように三井東洋化学の労働者の組織は、労働者の分断支配をすすめている資本の分裂政策の

闘いの足あと

ひとまず闘いの経過について見よう。

四月二十六日、かねて賃上げ一



こんどの定期総会で、51人の停年退職者が総評議長、炭労委員長、三池労組組合長から表彰を受け、これからは闘い続けることを誓った。

万円を統一要求していた企業内各労働者に対し、会社は賃上げ七千二百円、期末手当七万六千円回答。

同月二十七日二十九日、共闘第一波の四八スト。

五月十二十四日、共闘第二波七二スト。

同月十八日、第三次回答「賃上げ八千円、期末手当十万円。共闘拒否」。

同月二十日以降、共闘第三波無期限スト。その間共闘主催で拠点職場交流実施。

同月二十八日、第三次にひきつづき第四次回答。四次回答内容「賃上げ九千二百円、期末手当は二年後上積みで支払う。共闘は拒否」。

同月二十九日、会社第五次回答「賃上げ九千四百五十円、期末手当十三万円プラス貸付け三万円」。

六月一日、全賃無記名投票によりスト中止。

おどろく事実

右の間ストライキ突入事業所はほとんど全部にわたり、大牟田工業所、薬料部門、農薬部門(三化)、イノシールほか(東庄)中間体のマルエン酸(三合)、農薬用フィルムや樹脂のビスフェノール(名古屋)、エチレンオキサイドやエチレングリコール、ポリプロピレン(東北石油化学)などがつきつきに無期限ストを敢行した。

中でも石油化学部門のこの種のストライキは、わが国ではじめてばかりでなく、国際的にもまだ見られないことだとさえ称されたが、そのストライキをあえて決行したのは合化加東の三化・東庄・三合の各労働者以外、あえて指摘すれば第二組合に所属する労働者だったのだから、おどろくばかりである。

まさしく大幅賃上げと期末手当の第五次回答をひきだした力は、ほかでもなく共闘に示された三井東洋化学労働者の統一の力だったといふことができる。この事実とはくに、いかなる組合組織を買断に分裂されている三池炭鉱労働者にとって、何よりの教訓となるのではなからうか。

C O 闘争へ全力結集

活動方針なども決定

定期総会

一九七二年度の活動方針を決定する三池炭鉱労働者定期総会は、去る六日開催、同活動方針を決定したほか、規約・機構の改革、新年度の予算などを決定、直ちに組合が当面しているC O 闘争に力を結集し、六項目を中心とする要求の獲得をめざし闘うことを決意した。

定期総会で決定した「活動方針」で紹介したので省略するとして、なおこの日総会で採択した「大会宣言」は次の通りである。

大会宣言

一九七〇年代の二年目を迎えた今日、国の内外でいよいよ激動のさざがは見えはじめてきた。資本主義国と社会主義国との基本的対立が、資本主義内部における帝国主義的競争の激化をさらに促進している。

従来資本主義の憲兵をもって任じてきたアメリカ帝国主義は没落し、長いあいだあられを醸成してきた中国との関係を要するなければならないいまに迫りつめられている。

わが国では、高度経済成長政策の延長として軍需産業が拡大され再び軍国主義が復活して海外侵略

職場短信

労働ニュース

咲いた失対の花

伊丹市の全日自労の仲間が「愛される失対に」ということで、自分たちでつくった花を市役所などに飾りつけられています。仲間が寒いうちから苗畑でチューリップの球根を植え丹生こめて育てました。おかげで、当局苦心の職場分裂の「賞品作戦」はみごと失敗でした。(全通東京)

いまわが国のすみずみから、

このことは、ますますはげしい合理化攻撃、公害、交通事故、高物価の押しつけとなり、すべての働く者にいつそ耐え難い犠牲を強制することは明らかである。

一九七二年六月六日

三池炭鉱労働組合定期総会

差別の賞品は返上

郵政記念日に中野郵便局は職場に「賞品」を配布しました。「成績優秀」といわれるのは「高級バスタオル」、そうでないところは「マクラカバ」。この差別に職場の労働者は大変な立腹。全郵もふくめて賞品が返上に立ちあがり

抵抗の炎が大きく燃えひろがろうとしている。避けることのできない階級対立が、日ごとにするようになり、ますます激化してゆくことだろう。

このような情勢の中で、三池労働組合一九七一年度の定期総会は、長期抵抗統一路線をさらに発展強化させ、三池という一企業内にとどまることなく、労働者階級全体の

中の一員として自らを位置づけ、「主体性の強化」と全労働者階級の力を高め、そして運動の前進を勝ちとることを意志統一した。

反合理化闘争としてのC O 退治闘争、職場における闘い、地域における住民闘争を強化し、働く者の団結をもつてより豊かな社会を創造することこそ、われわれの目標とするものである。

われわれは組合結成以来、全国の仲間との暖かい支援に包まれながら闘い続けてきた。われわれ組合員と家族は、全国の働く皆さんの連帯とご支援に対し心から感謝申し上げると同時に、われわれは労働者解放の大事業を成し遂げる日まで力強く闘い抜くことを誓うものである。

歴史はまさに、われわれ労働者の勝利を保障していることを確認し、右宣言する。